

もっとズルい登録販売者講座チェック 第5回 (解答用紙)

受講 番号		氏 名		得 点	／42
----------	--	--------	--	--------	-----

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

もっとズルい登録販売者講座 チェックテスト 第5回（問題）

1. 総合胃腸薬は、胃腸の不調に幅広く対応するため、制酸剤や胃粘膜保護成分、健胃生薬、消化剤、整腸剤、鎮痛鎮痙剤、消泡剤など、複数の成分を組み合わせている。
2. カルニチン塩化物は、胃酸の分泌を抑え、胃腸の運動を抑制するため、止瀉薬に配合され、ダイエットにも効果があるといわれている。
3. プロザイムは、消化を助け、胃もたれを改善し、胃をすっきりさせる効果がある。
4. ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があり、妊娠中で消化力が低下したり、肝臓の働きが弱っている人におすすめである。
5. 制酸成分は胃酸をやわらげ、健胃薬は胃酸の分泌を盛んにするため、同時に配合されることはない。
6. メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
7. アルジオキサは、カルシウム含む成分であるため、透析を受けている人は、使用を避ける。
8. ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなるおそれがあるため、授乳中の女性は、使用を避けるか、使用期間中の授乳を避ける。
9. 胃腸鎮痛鎮痙薬に配合されている成分は、胃腸以外に対する作用を示すものがほとんどであり、複数の胃腸鎮痛鎮痙薬が併用された場合、泌尿器系や循環器系、精神神経系などに対する作用（副作用）が現れやすくなる。
10. ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされるが、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、乗物または機械類の運転操作をしないこととされている。
11. オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用があるとされ、妊娠中や小児における安全性も確立されている。
12. アミノ安息香酸メチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける。

13. パパベリンは、胃腸の痙攣を鎮め、胃液分泌を抑える。
14. 制酸成分は、胃腸薬だけでなく、便秘薬や解熱鎮痛薬、かぜ薬などでも配合されているため、併用時には注意する。
15. ボレイ（カキの貝殻）は、タンパク質の消化を目的として胃腸薬に配合される生薬である。
16. オウバク、オウレンは、苦味健胃薬であり、止瀉薬として用いられることもある。
17. ユウタン（熊胆）、動物胆は、動物由来の苦味健胃薬である。
18. 安中散は、体力中程度以下で、腹部は力がなくて、胃痛または腹痛があり、ときに胸やけ、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐などを伴うものに適する。
19. 六君子湯は、体力中程度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾などに用いる。
20. 整腸薬、瀉下薬では、医薬部外品として製造販売されている製品もあるが、それらは人体に対する作用が緩和なものとして、効能効果の範囲は限定されている。
21. トリメブチンマレイン酸塩は、刺激性の瀉下成分である。
22. 次没食子酸ビスマスは、細菌性の下痢や食中毒の際に用いる止瀉成分である。
23. タンニン酸アルブミンは、消化管内では、タンニン酸（収斂作用）とアルブミン（抗菌作用）に分かれて、それぞれ止瀉作用をもたらす。
24. オウバク、オウレンは、収斂作用のほか、抗菌作用、抗炎症作用も期待して用いられる。
25. 木クレオソートは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害物質を吸着する。
26. ロペラミド塩酸塩は、主として、細菌感染による下痢の症状に用いられる。
27. 無機塩類下剤（酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム、硫酸マグネシウム等）は、腸内容物からの浸透圧を妨げることで糞便中の水分量を増し、大腸を刺激して排便を促す。
28. ヒマシ油は、大腸刺激性下剤であり、駆虫薬と併用できる。

29. ヒマシ油は、急激で強い瀉下作用があるため、激しい腹痛または悪心・嘔吐の症状がある人、妊娠または妊娠していると思われる女性、授乳中の女性、3歳未満の乳幼児では使用を避ける。
30. ビサコジルが配合された瀉下薬は、胃の中で溶けやすい早溶錠が多い。
31. 刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬は、一般に腸の急激な運動に刺激されて、流産や早産を誘発するおそれがある。
32. マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって発酵されて生じるガスによって便通を促す。
33. 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
34. 大黃甘草湯は、体力に関わらず使用できる。便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振・食欲減退、腹部膨満、腸内異常発酵、痔疾などの症状の緩和に適する。
35. 防風通聖散は、色白で疲れやすく、汗をかきやすい傾向のある人における、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）、関節痛、むくみの症状に適する。
36. 一般用医薬品では、センソは、1日用量を5mg以下となるよう用法・用量が定められており、それに従って服用すれば、舌が痺れたりすることはない。
37. ロクジョウは、ウシの胆石である。
38. 苓桂朮甘湯には、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に利尿作用により、水毒の排出を促すことを主眼とする。
39. パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高める作用がある。
40. 鉄製剤の服用の前後30分にタンニン酸を含む緑茶やコーヒー等を摂取すると、タンニン酸と反応して、鉄の吸収が促進される。
41. 肛門の中にできたいぼ痔を内痔核、肛門の外にできたいぼ痔を外痔核という。
42. 猪苓湯は、体力中程度以上で、排尿異常がある人に使用される。

もっとズルい登録販売者講座チェックテスト 第5回(解答解説)

1. ○ 消化不良や胃痛、胸やけなどの症状が明確な場合は、その症状に特化した成分のみを含む医薬品を選ぶ方が効果的である。
2. × カルニチン塩化物は、生体内に存在する有機酸の一種であり、その働きは必ずしも明らかにされてはいないが、胃液分泌を促す、胃の運動を高める、胃壁の循環血流を増すなどの作用があるとされ、胃の働きの低下や食欲不振の改善を期待して、胃腸薬や滋養強壮保険薬に用いられる。脂肪代謝に必須であることから「脂肪をもやす」「ダイエットに効果がある」いわれるが、ヒトでの有効性について信頼できるデータは示されてはいない。
3. ○ プロザイムは、タンパク質の消化酵素であり、消化薬に配合される。
(太田胃酸A錠剤、パンシロン01など)
4. × ウルソデオキシコール酸は、胎児毒性の可能性があるため、妊婦または妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
また、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人ではかえって症状を悪化させるおそれがあるため、治療を行っている医師等に相談がなされるべきである。
5. × 制酸と健胃のように相反する作用を期待する成分が配合されている胃腸薬もあるが、胃腸の状態によりそれらの成分に対する反応が異なり、総じて効果がもたらされると考えられている。
6. ○ 解熱鎮痛成分から胃粘膜を保護するため、メタケイ酸アルミン酸マグネシウムが配合されることもある。
7. × アルジオキサは、アラントインと水酸化アルミニウムの複合体で、カルシウムではなく、アルミニウムを含んでいる。「アルジオキサ」「スクラルファート」「合成ヒドロタルサイト」などは、アルミニウム含む成分であるため、透析を受けている人は、使用を避ける。
8. ○ ロートエキスの抗コリン作用が乳児にも影響する。
9. ○ たとえば、胃腸薬の代表的な胃腸鎮痛鎮痙薬であるロートエキスには、抗コリン作用があり、目のまぶしさや、口渇、排尿困難等が現れる場合がある。服用時、乗物や機械類の運転操作をしないこととされている。

10. ○ ピレンゼピンは、抗コリン成分であり、副交感神経の働きを抑え、胃液の分泌を抑えるが、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、乗物または機械類の運転操作をしないこととされている。
11. × オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用があるとされ、妊婦または妊娠していると思われる女性、15歳未満の小児では、使用を避けることとされている。胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。精神神経系の副作用として、頭痛、眠気、めまい、脱力感が現れることがある。
(サクロンQ)
12. ○ メトヘモグロビン血症とは、赤血球中のヘモグロビンの一部がメトヘモグロビンに変化し、酸素を運ぶ能力が低下して、貧血症状を呈する病気である。
13. × パパベリンは、消化管の平滑筋に直接作用して胃腸の痙攣を鎮める作用を示すが、抗コリン成分のように自律神経に作用しないため、胃液分泌を抑える作用は見いだせない、にもかかわらず、眼圧を上昇させる作用を示すことがあるため、緑内障の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
14. ○ 制酸成分の摂りすぎは、高カルシウム血症、高マグネシウム血症などを生じるおそれがある。
15. × 胃腸薬に配合されるボレイ（カキの貝殻）は、含まれる炭酸カルシウムによる制酸作用が期待されている。
16. ○ 苦味健胃薬（くみけんいやく）には、オウバク、オウレンのほか、センブリ、ゲンチアナ、リュウタンなどがある。
17. ○ ユウタン（熊胆）はヒグマなどの胆汁、動物胆はウシなどの胆汁である。ちなみに、リュウタン（竜胆）は、ユウタン（熊胆）より苦いため名付けられたものだが、実際にはトウリンドウの根または根茎であり、動物由来ではない。
18. ○ 安中散（あんちゅうさん）は、「腹部は力がなくて」の神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適している。
19. × 六君子湯は、胃腸薬である。この説明は、婦人薬である桃核承気湯（とうかくじょうきとう）のもの。六君子湯（りっくんしとう）は、体力中程度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃痛、嘔吐などに適する。「六君は、みぞおちがつかえ、手足が冷えやすい」

20. ○ たとえば、下痢・便秘を繰り返す場合などに対応する整腸剤は、医薬品においてのみ認められている。
21. × トリメブチンマレイン酸塩は、消化管の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用がある。なお、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあるので、肝臓病の診断を受けた人では、使用の適否を医師または薬剤師に相談する。
22. × 次没食子酸（じもつしょくしさん）ビスマスは、長粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、長粘膜をひきしめる（収斂する）ことにより、腸粘膜を保護する止瀉成分である。下痢は、腸管内の有害な物質を排出するための防御反応であり、止瀉薬によって下痢を止めることでかえって症状の悪化を招くことがある。なお、ビスマスを含む成分については、長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等）が現れることがあるので、1週間以上継続使用しないこととされている。
23. × 収斂作用と抗菌作用に分かれるのは、タンニン酸ベルベリンである。タンニン酸ベルベリンは、消化管内では、タンニン酸（収斂作用）とベルベリン（抗菌作用）に分かれて、それぞれ止瀉作用をもたらす。もちろんタンニン酸アルブミンも収斂作用による止瀉作用をもたらす。また、アルブミンは牛乳カゼイン由来であるので、牛乳アレルギーの人は使用を避ける。
24. ○ オウバク、オウレンは、ベルベリンを含む。ベルベリンの抗菌作用は、ブドウ球菌や大腸菌を抑えて、腸内細菌のバランスを正常にし、止瀉作用をもたらす。
25. × 吸着成分に用いられるのは、薬用炭、乳性カルシウム、天然珪酸アルミニウム、カオリンなどである。木（もく）クレオソートには、殺菌や局所麻酔作用もあるが、主に、過剰な腸管の運動（ぜん動運動）を最上かするとともに、水分や電解質の分泌も抑える作用を目的に配合される。
26. × ロペラミドは、飲み過ぎ・食べ過ぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に使う。細菌感染による下痢（食あたり・水あたり）は、適用対象ではない。
27. ○ 腸内容物からの水分吸収は、浸透圧を利用しているため、マグネシウム塩やナトリウム塩で、腸内容物の塩分濃度を高めると、体内への水分吸収が妨げられ、糞便中の水分量が増し、大腸が刺激されて排便が促される。なお、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがある。

28. × ヒマシ油は、トウゴマの種を圧搾して得られる脂肪油で、小腸でのリパーゼの作用により生じる分解物が、小腸を刺激することにより瀉下作用をもたらす小腸刺激性下剤である。駆虫薬と併合すると本来、腸からほとんど吸収されないはずの駆虫薬が吸収されやすくなり、全身性の副作用を生じるおそれがある。
29. ○ また、防虫剤や殺鼠剤を謝って飲み込んだときも使用してはならない。
30. × ビサコジルは、大腸刺激性の下剤であり、胃内で分解されて効果が低下したり、胃粘膜に無用な刺激をもたらすのを避けるため、腸内で溶けるようにコーティング等された腸溶性製剤が多い。(コーラック、ビューラックなど)
31. ○ 特に、センナ、センノシドについては、妊婦または妊娠していると思われる女性には使用をさける。
32. ○ マルツエキスは、サツマイモでんぷん由来の麦芽糖であり、作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。
33. × 複数の駆虫薬を併用しても駆虫効果が高まることはなく、副作用が現れやすくなり、また組み合わせによっては、かえって駆虫効果が減弱することもある。
34. ○ 大黃甘草湯は、「体力に関わらず使用できる」「便秘、便秘に伴う頭重」…に適する。虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、不向きとされる。
35. × 問題文は防已黄耆湯（ぼういおうぎとう）の説明である。防已黄耆湯は、肥満や汗っかきで疲れやすい、「いわゆる水ぶとり」の方向けの漢方薬である。防風通聖散は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症（副鼻腔炎）、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、肥満症に適するとされる。
36. × センソが配合された丸薬は、口中でかみ砕くと舌等が麻痺することがあるため、かまずに服用する。
37. × ロクジョウは、雄鹿の角化していない幼角を基本とする生薬で、強心作用の他、強壮、血行促進等効果がある。ウシの胆石は、ゴオウである。
38. ○ 苓桂朮甘湯（りょうけいじゅつかんとう）は、体力中等度以下で、めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸があるものの立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ、神経症、神経過敏に対応するが、強心作用のある生薬は含まれない。「めまい、ふらつき」と「カンゾウ含む」ところがポイント。

39. × パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、HDL産生を高める作用がある。
40. × 鉄製剤の服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が悪くなることがある。
41. × 肛門ではなく、肛門内部にある歯状線（皮膚と粘膜の境界線）を基準にする。
42. × 猪苓湯（ちょれいとう）は、「体力に関わらず使用でき」、排尿異常があり、ときに「口が渇くものの」排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適する。